
カードファイトヴァンガード～イメージと絆を繋ぐ物語～

永遠なる自由の剣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カードファイトヴァンガード〜イメージと絆を繋ぐ物語〜

【Nコード】

N2376Z

【作者名】

永遠なる自由の剣

【あらすじ】

ヴァンガードの世界に遊戯、十代、遊星、遊馬が迷いこんだ！
ヴァンガードと遊戯王のクロス物語です。

出会いと始まり

そう遠くない未来のお話、カードゲーム人口は数億人を越え今ではカードゲームを専門とした学園まで存在していた。学園の名前はファイトアカデミア、ヴァンガードを専門とした学校である。

この学園に通う一人の少年がいた。

彼の名前は先導アイチ、權という最強のファイターとファイトすることを夢見る少年である。

(今日は良いことが起こりそうな気がする……)

そう思いアイチは教室へと急いだ。

教室に着くといつものメンバーがいた。

「おはようございますお兄さん……」

「おはようカムイ君！」

アイチにカムイと呼ばれたこの少年は葛木カムイ。

「やけに上機嫌じゃない？アイチ」

次に話し掛けて来たのは戸倉ミサキ。

この二人はアイチと同じチーム、Q4のメンバーである。

「なんか今日は良いことが起こりそうな気がする」

「くだらんイメージだな……………」

「權君……………」

アイチたちが話していた場所に一人の青年が現れた。彼の名前は權トシキ、この世界のヴァンガードチャンピオンと双壁とも呼ばれていてアイチたちと同じQ4のメンバーである。

「權のやるー、頭にくるな！」

「カムイ君落ち着いて……………」

怒り狂ったカムイをアイチが止めていると、

ガツシャーン！

校庭の方からすごい音がした。

「な…なんだ！？校庭の方からか！？」

「行ってみよう！」

「待つて、アイチ！」

權を除く3人は校庭を目指して駆けていった。
3人が校庭に着くとそこは土煙が上がっていた。

「ゲホゲホ……………何が起きたんだ？」

「わからないけど気をつけてカムイ君」

「大丈夫ですよお兄さん」

カムイがそういった時、土煙の向こうから人が4人現れた。

「遊星……ここはどこだ？」

「わからない……俺らの世界ではないみたいだな」
遊星と呼ばれたその人が答える。

「な……人が出て来たあ!？」

カムイは驚きアイチの後ろに隠れる。

土煙が晴れてくるとそこにはどこかの制服を着て、首から見たこともないネックレスをしている青年と先ほど遊星と呼ばれたらしきキールだがいびつな髪型をしている青年、何らかの鍵らしきものを首から下げている男の子、赤いブレザーを着ている青年が立っていた。

「貴方方は一体誰ですか……?」

アイチが恐る恐る聞いた。

すると先ほど遊星と呼ばれた青年が答えた。

「俺の名前は不動遊星だ……俺たちは世界が崩壊するとアポリアから告げられ、その未来を代えるためにDホイールに乗って遊戯さん、十代さん、遊馬さんを迎えに時代を越えていたんだ。」

「ちょっと待て……時代を越えて来た?そんなバカな話しあるのか?」

ミサキが質問した。すると、遊星は手袋を外し痣を見せて話した。

「この竜の痣の力で時代を越えられるんだ。そして赤き竜に導かれて来てみたらこんな場所についたんだ」

「そんなことがあるんですか………とここでデュエリストとは何ですか？」

アイチは疑問をぶつけた。すると鍵のようなペンダントをした少年が答えた。

「遊戯王カードで戦う決闘者の事だ！お前ら知らないのかよ！？ほら……」

そついいその少年はデッキケースからカードを取り出したがびっくりした声を上げた。

「俺のデッキが訳のわからないカードになっちゃった………」

「な！？」

残りの3人もデッキを確認してみる。すると全員のカードも見たことがないカードになっていた。

「なんだこのカードは………」

「ヴァンガードを知らないのか？」

「……ヴァンガード！？」「」「」

4人は驚きの声を上げた。

「ルールを教えてやるよ……」

「權君」

權がいつのまにかアイチの横に立っていた。

「權君戦うの？」

「ああ、あいつらの持っているカードが気になる………それに話すより簡単にわかりあえる」

權がそういうと見たこともないネックレスをした青年が答えた。

「面白そうだな、四の五の言うより分かりやすい………良いぜデュエルだ」

「僕も戦ってみたい！」

「私も興味がわいた。私も戦いたい」

「俺様もだ」

アイチ、ミサキ、カムイも戦いたいと言った。

「こっちも4人だしちょうどいい、よろしく頼む」

こうしてアイチたちQ4と遊星ら4人によってファイトをすることになったのだった。

出合いと始まり(後書き)

次回は遊戯VS權君です
最強同士の戦いです

最強VS最強 前編

30分後、遊星たちはデッキを見て個々の能力を覚えた。そして權と見たこともないネックレスをした青年とのファイトが始まるようにしていた。

「俺の名前は武藤遊戯…さあ！面白い勝負をしようぜ！」

「俺の名前は權トシキだ…お前は初心者だから説明しながら戦ってやるよ！」

お互いに自己紹介をし握手をしてファイトを始めようとしていた。

「よし！始めるぞ！イメージしろ…今の俺たち二人は地球によく似た惑星『クレイ』に現れた霊体だ…このか弱い存在の俺たちに与えられた能力がふたつある…ひとつは『コール』！この惑星の住人やモンスターたちを呼び寄せる能力だ！俺たちが呼び寄せる事ができるのは契約したものたち…」

そう言い權はデッキを手に持ち話を続けた。

「お互いのデッキに集められたカードたちだけだ！」
そして權はデッキを置いた。

「そしてふたつめは霊体である自分呼び寄せたモンスターらに憑依させる能力！『ライド』！！そしてライドした俺たちを先導者…『ヴァンガード』と呼ぶ！まずはグレード0のカードを1枚選ん

でそれを場に伏せな！」

櫛はデッキからカードを1枚選んで伏せた。遊戯も同じく1枚選び置いた。

「最初の俺たちが最初にライドできるのはこのグレード0だけだ」

「なるほどな」

「この伏せたカードが開かれたらそれは他の誰でもない自分自身となる！自らがヴァンガードとなって契約したものを率いて戦うんだ！さあシャッフルしたデッキからカードを5枚引きな、それが俺たちが呼び寄せる準備の整ったものたちだ」

櫛はシャッフルしたデッキからカードを引きながら言う。
遊戯も同じく引く。

「よし！同時にこのファーストヴァンガードを開いたらゲームスタートだ！行くぞ！」

「来な！」

櫛と遊戯は伏せたファーストヴァンガードを開きながら同時にこういう

「「スタンドアップヴァンガード！！」」

「俺はアンバードラゴン暁にライド！」

「俺は見習いの黒魔術師にライド！」

「これでお互いヴァンガードとして惑星クレイの地に立った！先ず

は俺の先攻だ：カードを1枚引く！」

そう言い權はカードをデッキから引いた。

「自分のターンには1度だけヴァンガードを更なる上級グレードにライドする事ができる…『ライドフェイズ』がある！」

權は手札からカードを1枚選び、ファーストヴァンガードの上に置いた。

「俺はこのカードにライドする！！ライド・ザ・ヴァンガード！！グレード1、アンバードラゴン白^{デイライト}だ！そしてアンバードラゴン暁^{ドーン}のスキルを発動する！デイライトがドーンにライドしたとき、デッキからアンバードラゴン黄昏^{ダスク}を1枚手札に加えデッキをシャッフルする事ができる…そしてアンバードラゴンデイライトのスキル！ソウルにアンバードラゴンドーンが有るならヴァンガード時だけだがこのユニットのパワーを+2000！」

元々のパワーが6000だったデイライトは8000となる。

「さらにヴァンガードは自身のグレード以下のカードをコールして従える事ができる…このカードを『リアガード』と呼ぶ！」

權はヴァンガードの後ろにカードを置いた。

「コール・ザ・リアガード！！グレード1のアンバードラゴンデイライト！！さらにデイライトのスキル！デイライトがリアガードにコールされたとき、手札のグレード3を捨てデッキからアンバードラゴン蝕^{イクリプス}を手札に呼べる！」

權はデッキからアンバードラゴンイクリプスを手札に加えた。

「これで俺の自陣には2体！アタック……は先攻した最初のターンはできない、ここで俺のターンを終了する」

「俺のターン！」

遊戯はデッキからカードを引いた。

「俺はこのカードにライドするぜ！ライド・ザ・ヴァンガード！！ブラックマジックカーテン！」

遊戯も見習いの黒魔術師の上にカードを置いた。

「見習いの黒魔術師のスキル！ブラックマジックカーテンがこのユニットにライドしたときデッキからブラックマジシャンを手札に加える！そしてブラックマジックカーテンのスキル！ソウルに見習いの黒魔術師が有るときパワー+2000だ！」

ブラックマジックカーテンの攻撃力も6000なので權のアンバードラゴンデイルイトと同じ攻撃力となった。

「さらにコール・ザ・リアガード！！ブラックマジックカーテン！このカードは權のデイルイトと同じようなスキルを持つ……」

「何だと？」

「手札のグレード3を捨てデッキからカオスマジシャンズドラゴンを手札に加える！」

遊戯も權と同じくデッキからカードを手札に加えた。
それを見ていたアイチが

「凄い……遊戯さん初めてなのにもうデッキを使いこなしてる……」

「当たり前だろ？遊戯さんは俺らの世界の初代デュエルチャンピオンなんだから！」

「君は？」

「俺の名前は遊城十代、よろしく」

十代と名乗った少年が握手を求めてきた。

「はじめまして！僕の名前は先導アイチです。遊戯さんってそんなに強い方だったんですね！」

アイチは十代と握手をし、率直な感想を述べた。

「もちろん！あの人はどんな強敵にも屈指ず戦い抜いてきた凄い人なんだぜ！」

アイチは十代の話を聞いて思う。（今の話が本当なら權君が満足して戦える相手だね）と。

「まさか同じ能力対決になるとはな……2体でアタックされたら俺は齒が立たない……お前の方が圧倒的に有利だが……アタックするかい？」

「おうー！」

「よし良いぜ！攻撃するユニットをレストし宣言しな！」

遊戯はユニットをレストしながら宣言する。

「リアガードのブラックマジックカーテンでヴァンガードをブースト！！ブラックマジックカーテンでアタック！！」

遊戯の攻撃が權にヒットした。

「やられたよ…お前のアタックは置いたにヒットした！ヴァンガードがアタックするとき、デッキの一番上を確認して手札に加える事ができる…そして確認したカードがトリガーユニットだった場合、そのトリガーの力を自陣のユニットに与える事ができる！さらにヴァンガードに攻撃がヒットするとデッキのカードが1枚…：契約が解除され言えヴァンガードの元から去っていく！まるで危険を感じて逃げ出したようだな…：アタックされてめくったカードがトリガーユニットの場合でもそのトリガーの力を使うことができる！そして…契約を解除されたものが6体を越えたとき…すべてのカードとの契約は解除され俺たちは霊体に戻り消滅する。つまりそのプレイヤーの負けだ…：理解できたな？授業は終わりだ！行くぞ！」

「来な！」

ここから權と遊戯の本当の戦いが始まるのだった。

最強VS最強後編

「マイターン、ドロ―：俺はアンバードラゴンダスクにライドする！アンバードラゴンダスクのスキル！ソウルにアンバードラゴンデイルイトが有るときパワー+1000だ！」

アンバードラゴンダスクのパワーが10000となった。さらに權は「ラーヴァアームドラゴン、フレイムエッジドラゴンをコール！そしてフレイムエッジドラゴンでヴァンガードをアタック！」

「ノーガード、ダメージトリガーチェック……ゲット！ドロートリガー！ヴァンガードにパワー+5000、そしてドロ―！」

「フレイムエッジドラゴンのスキル！このユニットのアタックがヒットしたときソウルチャージできる！ソウルをチャージし、次だ！アンバードラゴンデイルイトのブースト！！アンバードラゴンダスクでヴァンガードをアタック！！ダスクのスキル！ダスクがヴァンガードをアタックするとき、パワー+2000される！」

ダスクはデイルイトのブーストと自身のスキルでトータルパワー18000となる。

「ノーガードだ！」

權のアタックがヒットし、カードが1枚ダメージゾーンに送られた。

「ドライブトリガーチェック……トリガー無しだ…ターンを終了する」

まだユニットが残っていたがパワーが足りずアタックできなかった。そして遊戯のターンになる。

「俺のターン！強いな君は…こんなに熱くなれた戦いは久しぶりだぜ！さあ、俺も本気で行くぜ！俺の最強の僕！ライド！ブラックマジシャン！さらにコール！ブラックマジシャンガール！ブラックマジシャンのスキル！カウンターブラスト！」

そういつて遊戯はダメージゾーンのカードを2枚裏返す。

「ソウルに見習いの黒魔術師、ブラックマジックカーテンが有るとき相手のリアガードを2体退却させる！ブラックマジック！！！」

權の場のラーヴァアームドラゴン、フレイムエッジドラゴンが退却させられた。

（なかなかやるな。しかもまだなにか隠し持ってるな）

「さらに行くぜ！リアガードのブラックマジシャンガール、ブラックマジックカーテンをソウルに異動することでこのカードはスペリオルライドできる！俺の新たな仲間！カオスマジシャンズドラゴンにスペリオルライド！」

「ほう？なかなか面白いな！それでこそ燃える！お前の本気見せてみる！」

「カオスマジシャンズドラゴンのスキル！このカードはソウルにブラックマジシャン、ブラックマジシャンガール、ブラックマジックカーテンが有るときカオスマジシャンズドラゴンのパワー+2000だ」

ももとのパワーは10000なので12000となる。

「さらに手札を1枚捨てデッキからグレード2以下のマジシャンユニットをコールできる！俺はデッキからカオスマジシャンをコールする！！カオスマジシャンはカオスマジシャンズドラゴンが有るときパワー+2000だ！」

カオスマジシャンのパワーも10000であるためパワーは12000となる。

「だがカオスマジシャンはカオスマジシャンズドラゴンがいないとパワー-5000だ！そしてカオスマジシャンでアタック！！」

「ガーディアンコール！ブレイジングゴアドラゴンをコール」

「アタックが通らないだと！？」

遊戯は驚きの声を上げた。

「自分の手札から一度だけユニットをコールしてヴァンガードを守る事ができる！ガーディアンとしてコールされたユニットはクローズステップ時にドロップゾーンに送られる」

「やっぱり權君はそこでガーディアンを教えるんだね…」

アイチが自分の時の事を思いだし呟いた。

「実戦の方が分かりやすいだろ…」

「確かにな…ならガーディアンのガード力を越えるパワーでアタックすればいいんだろ！カオスマジシャンズドラゴンでヴァンガード

をアタック！！ツインドライブ、ファースト！！ゲットクリティカルトリガー！セカンド！！スタンドトリガーだ！パワーをカオスマジシヤンズドラゴンとカオスマジシヤンに、そしてカオスマジシヤンズドラゴンにクリティカル+1だ！」

アタックはヒットし權のデッキからカードが2枚ダメージゾーンに置かれた。

「さらにカオスマジシヤンでアタック！！」

「ノーガードだ…」

これで權のダメージは4となった。

「これで俺のターンは終了だ」

「マイターン、スタンドアンドドロ！俺はアンバードラゴンイクリプスにライド！イクリプスのスキル！ソウルにアンバードラゴンダスクが有るときパワー+1000だ！」

イクリプスのパワーが11000になる。

「さらにドラゴニックオーバーロード、デュアルアクスアークドラゴン、バーをコール！ドラゴニックオーバーロードのカウンターブラスト！オーバーロードにパワー+5000だ！」

權は一気に攻撃を仕掛けた。

「オーバーロードでカオスマジシヤンにアタック！！エターナルフレーム！！」

「ノーガード」

オーバードの攻撃がヒットしオーバードがスタンドした。

「な……シリーズアタック!?クソ」

「再度オーバードでアタック!エターナルフレイム!」

「エポナでガードする!」

オーバードの攻撃は防がれてしまった。だが權の攻撃は止まらない。

「アンバードラゴンデイルイトのブースト!アンバードラゴンイクリプスでアタック!」

「ガードはしない」

「ツインドライブ、ファースト……」

1枚目にはトリガーはなかった。

「セカンド…ゲットクリティカルトリガー!イクリプスにクリティカル+1、アクスにパワーを与える!」

遊戯のダメージゾーンにカードが2枚送られた。

「バーのブースト!アクスでアタック!アクスのスキル、相手

リアガードが2体以下のときパワー+3000だ！」

アクスのトータルパワーが26000となる。

「高過ぎる！ノーガードだ」

遊戯のダメージが5となった。

「あと1ダメージだな……俺のターンは終了する」

「俺のターンだ！カオスマジシャンズドラゴンの最後のスキル！カウンスターラスト！」

ダメージを3枚裏返した。

「パワー+10000、クリティカル+1だ！だがこのスキルはソウルにブラックマジシャン、ブラックマジシヤンガール、ブラックマジックカーテンがありダメージが4以上ではないと使えないが十分だ！さらにブラックマジシャン、ブラックマジックカーテンをコール！そしてアタック！！カオスマジシャンズドラゴンでアタック！！！」

このアタックがヒットすると權は敗けてしまつのに權は焦らなかつた。

「バリエで完全防御だ……」

「ヒットしないだど！？ツインドライブ…ファースト…セカンド、ゲットクリティカルトリガー！効果はすべてブラックマジシャンへ！」

ツインドライブで引いた1枚目はグレード3だった。
クリティカルトリガーの能力でブラックマジシャンの攻撃力は14
000となった。

「ブラックマジックカーテンのブースト！！ブラックマジシャンで
アタック！！」

「ラクシャでガードだ！！」

「ターン終了だ…」

遊戯はこのターンで權を倒せなかった。そして遊戯はもう次のター
ンは来ないと悟った。

「ファイナルターン！」

「何！？」

ファイトを見ていた十代は驚きの声を上げ、アイチたちは遂にかと
思った。

「ブレイジングフレアドラゴンにライド！そしてジョカをコール！
そしてブレイジングフレアドラゴンのソウルブラスト！相手ユニッ
トを1体退却させる！」

遊戯の場のブラックマジシャンが姿を消した。

「そしてジョカ、ブレイジングフレアドラゴンのスキル！相手ユニ
ットが退却したときパワー+3000だ！」

「何だと！？」

「ドラゴニックオーバーロードのアタック！」

アタックがヒットしダメージチェックに入る。

「ゲット、スタンドトリガーだ！パワーをヴァンガードに、ブラックマジックカーテンをスタンド」

「アンバードラゴンデイルライトのブースト！！ブレイジングフレアドラゴンでアタック！！」

「ブラックマジックカーテン、エポナでガード！これで防げるはずだ！」

「ツインドライブ、ファースト…ゲットドロトリガー！セカンド…ゲットクリティカルトリガー！効果のすべてはアクスに！そして1毎夜ドロ…そしてデュアルアクスアークドラゴンでアタック！！」

もう遊戯にはガードできるカードがなかった。

「ノーガード…」

「双斧に刻まれし恐怖、絶望……永の苦痛に悶えて眠れ！！デュアルアクスボンバー！！」

デュアルアクスのアタックがヒットし、遊戯のダメージが7となり遊戯は權に敗北してしまったのだった。

「久しぶりに面白いファイトだったぜ……遊戯、ルームをしっかり

覚えたらお前は今よりもっと強くなる…その時が楽しみだ」

「もちろん絶対に強くなってやる！そして權、君と戦い必ず勝ってみせる！」

そっぴいお互いに握手をした。

「あの遊戯さんに勝つ何てあいつは一体何者何だ！？それにしてもすごかったな！今を見たら俺もやりたくなっちまったぜ！なあアイチ、俺とファイトしよう！」

十代が興奮しきってアイチにそう告げた。
アイチは戸惑ったが

「もちろんだよ！さあファイトしよう！」

そっぴいつて二人は權と遊戯が戦った場所へと移動するのだった。

そして場所に着きデッキを置いて叫んだ。

「「スタンドアップヴァンガード！！」「」

最強VS最強後編(後書き)

次回はアイチVS十代です。

ユニットの設定どうしようかな()()()()・・・()

最強VS最強後編

「マイターン、ドロ―：俺はアンバードラゴンダスクにライドする！アンバードラゴンダスクのスキル！ソウルにアンバードラゴンデイルイトが有るときパワー+1000だ！」

アンバードラゴンダスクのパワーが10000となった。さらに權は「ラーヴァアームドラゴン、フレイムエッジドラゴンをコール！そしてフレイムエッジドラゴンでヴァンガードをアタック！」

「ノーガード、ダメージトリガーチェック……ゲット！ドロートリガー！ヴァンガードにパワー+5000、そしてドロ―！」

「フレイムエッジドラゴンのスキル！このユニットのアタックがヒットしたときソウルチャージできる！ソウルをチャージし、次だ！アンバードラゴンデイルイトのブースト！！アンバードラゴンダスクでヴァンガードをアタック！！ダスクのスキル！ダスクがヴァンガードをアタックするとき、パワー+2000される！」

ダスクはデイルイトのブーストと自身のスキルでトータルパワー18000となる。

「ノーガードだ！」

權のアタックがヒットし、カードが1枚ダメージゾーンに送られた。

「ドライブトリガーチェック……トリガー無しだ…ターンを終了する」

ももとのパワーは10000なので12000となる。

「さらに手札を1枚捨てデッキからグレード2以下のマジシャンユニットをコールできる！俺はデッキからカオスマジシャンをコールする！！カオスマジシャンはカオスマジシャンズドラゴンが有るときパワー+2000だ！」

カオスマジシャンのパワーも10000であるためパワーは12000となる。

「だがカオスマジシャンはカオスマジシャンズドラゴンがいないとパワー-5000だ！そしてカオスマジシャンでアタック！！」

「ガーディアンコール！ブレイジングゴアドラゴンをコール」

「アタックが通らないだと！？」

遊戯は驚きの声を上げた。

「自分の手札から一度だけユニットをコールしてヴァンガードを守る事ができる！ガーディアンとしてコールされたユニットはクローズステップ時にドロップゾーンに送られる」

「やっぱり權君はそこでガーディアンを教えるんだね…」

アイチが自分の時の事を思いだし呟いた。

「実戦の方が分かりやすいだろ…」

「確かにな…ならガーディアンのガード力を越えるパワーでアタックすればいいんだろ！カオスマジシャンズドラゴンでヴァンガード

をアタック！！ツインドライブ、ファースト！！ゲットクリティカルトリガー！セカンド！！スタンドトリガーだ！パワーをカオスマジシヤンズドラゴンとカオスマジシヤンに、そしてカオスマジシヤンズドラゴンにクリティカル+1だ！」

アタックはヒットし權のデッキからカードが2枚ダメージゾーンに置かれた。

「さらにカオスマジシヤンでアタック！！」

「ノーガードだ！！」

これで權のダメージは4となった。

「これで俺のターンは終了だ」

「マイターン、スタンドアンドドロ！俺はアンバードラゴンイクリプスにライド！イクリプスのスキル！ソウルにアンバードラゴンダスクが有るときパワー+1000だ！」

イクリプスのパワーが11000になる。

「さらにドラゴニックオーバーロード、デュアルアクスアークドラゴン、バーをコール！ドラゴニックオーバーロードのカウンターブラスト！オーバーロードにパワー+5000だ！」

權は一気に攻撃を仕掛けた。

「オーバーロードでカオスマジシヤンにアタック！！エターナルフレーム！！」

「ノーガード」

オーバーロードのアタックがヒットしオーバーロードがスタンドした。

「な……シリーズアタック!?クソ」

「再度オーバーロードでアタック!エターナルフレイム!」

「エポナでガードする!!」

オーバーロードの攻撃は防がれてしまった。だが權の攻撃は止まらない。

「アンバードラゴンデイルイトのブースト!!アンバードラゴンイクリプスでアタック!!」

「ガードはしない」

「ツインドライブ、ファースト……」

1枚目にはトリガーはなかった。

「セカンド……ゲットクリティカルトリガー!イクリプスにクリティカル+1、アクスにパワーを与える!」

遊戯のダメージゾーンにカードが2枚送られた。

「バーのブースト!!アクスでアタック!!アクスのスキル、相手

リアガードが2体以下のときパワー+3000だ！」

アクスのトータルパワーが26000となる。

「高過ぎる！ノーガードだ」

遊戯のダメージが5となった。

「あと1ダメージだな……俺のターンは終了する」

「俺のターンだ！カオスマジシャンズドラゴンの最後のスキル！カウンスターラスト！」

ダメージを3枚裏返した。

「パワー+10000、クリティカル+1だ！だがこのスキルはソウルにブラックマジシャン、ブラックマジシヤンガール、ブラックマジックカーテンがありダメージが4以上ではないと使えないが十分だ！さらにブラックマジシャン、ブラックマジックカーテンをコール！そしてアタック！！カオスマジシャンズドラゴンでアタック！！！」

このアタックがヒットすると權は敗けてしまつのに權は焦らなかつた。

「バリエで完全防御だ……」

「ヒットしないだど！？ツインドライブ…ファースト…セカンド、ゲットクリティカルトリガー！効果はすべてブラックマジシャンへ！」

ツインドライブで引いた1枚目はグレード3だった。
クリティカルトリガーの能力でブラックマジシャンの攻撃力は14
000となった。

「ブラックマジックカーテンのブースト!!ブラックマジシャンで
アタック!!」

「ラクシャでガードだ!!」

「ターン終了だ!!」

遊戯はこのターンで權を倒せなかった。そして遊戯はもう次のター
ンは来ないと悟った。

「ファイナルターン!!」

「何!?!」

ファイトを見ていた十代は驚きの声を上げ、アイチたちは遂にかと
思った。

「ブレイジングフレアドラゴンにライド!そしてジョカをコール!
そしてブレイジングフレアドラゴンのソウルブラスト!相手ユニッ
トを1体退却させる!!」

遊戯の場のブラックマジシャンが姿を消した。

「そしてジョカ、ブレイジングフレアドラゴンのスキル!相手ユニ
ットが退却したときパワー+3000だ!!」

「何だと!?!」

「ドラゴニックオーバーロードのアタック！」

アタックがヒットしダメージチェックに入る。

「ゲット、スタンドトリガーだ！パワーをヴァンガードに、ブラックマジックカーテンをスタンド」

「アンバードラゴンデイルイトのブースト！！ブレイジングフレアドラゴンでアタック！！」

「ブラックマジックカーテン、エポナでガード！これで防げるはずだ！」

「ツインドライブ、ファースト…ゲットドロトリガー！セカンド…ゲットクリティカルトリガー！効果のすべてはアクスに！そして1毎夜ドロ…そしてデュアルアクスアークドラゴンでアタック！！」

もう遊戯にはガードできるカードがなかった。

「ノーガード…」

「双斧に刻まれし恐怖、絶望……永の苦痛に悶えて眠れ！！デュアルアクスボンバー！！」

デュアルアクスのアタックがヒットし、遊戯のダメージが7となり遊戯は權に敗北してしまったのだった。

「久しぶりに面白いファイトだったぜ……遊戯、ルームをしっかり

覚えたらお前は今よりもっと強くなる…その時が楽しみだ」

「もちろん絶対に強くなってやる！そして權、君と戦い必ず勝ってみせる！」

そっぴいお互いに握手をした。

「あの遊戯さんに勝つ何てあいつは一体何者何だ！？それにしてもすごかったな！今を見たら俺もやりたくなっちまったぜ！なあアイチ、俺とファイトしよう！」

十代が興奮しきってアイチにそう告げた。
アイチは戸惑ったが

「もちろんだよ！さあファイトしよう！」

そっぴいて二人は權と遊戯が戦った場所へと移動するのだった。

そして場所に着きデッキを置いて叫んだ。

「「スタンドアップヴァンガード！！」「」

最強VS最強後編(後書き)

次回はアイチVS十代です。

ユニットの設定どうしようかな()()()()・・・()

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2376z/>

カードファイトヴァンガード～イメージと絆を繋ぐ物語～

2011年12月8日23時50分発行